

一 般 質 問

山崎澄子議員

小規模校の 統廃合問題について

議員 文部科学省では小規模校統廃合の手引き案を公表しました。当町の3つの小学校は文科省の手引きのような学級編成になるか。町ではどのような対応をとるか。

昔から地域のコミュニティの中心は小学校です。地域から子供の学習する声途絶えるという事は、過疎化に拍車がかかり地域を輪とした絆もなくなるものと思われます。お考えを伺います。

教育長 文科省の手引きには小学校において6学級以下になる場合には、統廃合等により適正規模に近づけるよう検討が必要とあります。今後、すべての学年で単学級になる小学校が予想されますが、年齢別児童数の推計で見ると、当面は単学



級規模が維持できる見込みです。地域の核であり、財産であり、歴史や文化・伝統とともに地域の人々に支えられて今日に至ってきた小学校ですので、当分の間、統廃合を行う考えはありません。

山崎澄子議員

「地域包括ケア システム」の浸透を

町長 団塊の世代が75歳に達する平成37年度には町の高齢化率は36%、65歳以上の人口に対する割合を示す要介護認定率は現在の12.1%から16%になると推計しています。

介護予防と生活支援においては、「高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画」に位置づけ、行政のみならずボランティアやNPO等の多様な主体による支援体制づくりを進めるとともに、高齢者同士が支え合う仕組みを作るための地域づくりを支援する取り組みを始めています。

議員 団塊世代の高齢化が一挙に進み介護保険の公費負担が増大することが懸念されます。2号被保険者の増加は期待できません。町では介護保険利用者がピークに達するのはいつでしょうか。

介護予防サポーター講習会を各地域で出前講座として開催し、きめ細かに介護予防を浸透させる必要があるのではないかと、また地域包括センターの存在も身近になるのではないかと。お聴きします。



山崎愛子議員

甘楽町の公衆トイレの見直しによる 増設と改修を

議員 観光客の増加に伴って町のおもてなしの一つがトイレです。総合公園やふれあいの丘などで使えない、数が少なくて」という話を聞く。一つの散歩コースには「必ずトイレがある、大丈夫だ」というようにトイレの増設と洋式への改修を早急にお願したい。観光の町の目玉としてのトイレの全面改修を。当局のお考えを伺いたい。

町長 総合公園には5か所のトイレがあり、公園に隣接した甘楽ふるさと館も利用できます。ふれあいの丘にも5か所あり、イベント開催時は、仮設トイレを設置しています。こうした現状から増設は予定していません。また散歩コースは千差万別で、すべてのコースにトイレがあるような設置は不可能だと考えています。



今後、高齢者の方々は身障者用トイレを使っていたり、洋式化への改修については、いろいろな意見がありますので検討していきます。

江原榮和議員

国道254号沿道等の 商業地化推進を図るための 農業振興地域からの 解除について

議員 北部農地は、農業振興地域整備計画に基づき大半が農業振興地域であり、その解除が困難である。第5次総合計画書の基本計画では、バイパス沿道を商業地として整備を図るほか計画的に宅地化し、住環境の整備を図るとしている。

政府の「まち・ひと・しごと創生に関する施策」の横断的検討施策として、県や国に農業振興地域の解除を要請し、バイパス沿道を早い時期に商業地化して、定住人口を増やすことが喫緊の課題である。町の方針をお聴きする。

町長 農振の除外は、町で協議会を開催し、県と事前協議、整備計画書の一部変更申請、公告縦



覧等を経て県知事許可となつていますが、農地を守る整備計画ですので、最近の申請の状況を見ても除外は厳しい状況です。

今後の方針ですが、町総合計画・町土地利用計画等との整合性を図りつつ高度利用を考えなければならぬと思つており、地域の皆さんのご意見を踏まえながら地方創生における町の計画の中に盛り込み、国や県に働きかけをしていきたいと考えています。

長岡敬一議員

「道の駅」期待に 応えていますか

議員 手軽に少量でも売ってもらえる「道の駅」は、小規模農家に大きな期待をもつて迎えられています。先日開かれた「農産物販売講習会」は、会場を埋める参加者の熱い期待に包まれていました。そこで生産者には期待通りの対応がされているのか、もっと販路の拡大はできないか（具体的には東京北区との連携、甘楽町の特産品を選定・推奨して若者の就農に刺激になるような模範直営農場の建設ができないか。

町長 町の特産品を販売し、農業及び産業の振興を図っていく施設として、道の駅甘楽の役割は、非常に重要だと考えています。

リニューアルオープン後、出荷している人は128人、一人あたりの販売平均額は45万円程度で、順調に売り上げを伸ばしています。販路拡大については、まず道の駅での直売に力を注ぎます。そして、今年、北区で町の物産展を予定しており、城下町ふれあい便等にも積極的に取り組み、町のPRと販路拡大に努めていきたいと思えます。



柳澤清次議員

雄川の水を利用し、 飲料水の販売を

議員 甘楽町には、稲含山に源を発する雄川が流れています。途中の翁橋下の大口という所から水を取り込み雄川堰があります。

小幡の桜並木周辺では、地元の方々の長きに渡る清掃奉仕のお蔭で清らかな流れが保たれ、小幡の桜並木、家並みとともに美しい景観を形成しており、日本の名水百選、疎水百選に選定されています。

そこで、名水百選にちなみ「甘楽の水 名水百選」と題して、飲料水として販売をしてみたいかかでしょうか。

町長 飲料水として販売するには、販売網を確立し、利益率を上げる販売量も考慮しなくてはならず、また町の浄水場施



設を使用する場合、新たな設備投資が伴うなど多大な費用がかかります。

「名水百選」のネーミングを直接使用できないこと、天然水等の塩素処理をしない市販品と比べると「おいしい水」のイメージ感が劣ることから事業者との委託契約にも至らないことが予想されます。

よって、飲料水販売事業は予算面、採算面とも難しいと考えます。